

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（梶 ）

使用教科書：（ 実教出版「保育基礎」 ）

教科 家庭 の目標： 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を  
【知識及び技能】 解図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。  
【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。  
【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

| 科目 | 保育基礎           | の目標：           |
|----|----------------|----------------|
|    | 【知識及び技能】       | 【思考力、判断力、表現力等】 |
|    | 【学びに向かう力、人間性等】 |                |

|   |  |  |
|---|--|--|
| 保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけてる。 | 子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につける。 | 子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につける。 |
|---|--|--|

|             | 単元の具体的な指導目標   | 指導項目・内容  | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|---|--|--|---|---|---|----------|
| 1<br>学<br>期 | 保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。 | 1章 保育の意義<br>1節 保育の意義<br>1 保育とは<br>2 保育の意義<br>2節 保育の方法<br>1 保育者の役割とは<br>2 一人ひとりに合わせた指導<br>3節 保育の環境<br>1 家庭での保育<br>2 幼児教育・保育の場<br>3 子どもが育つ環境の変化と課題 | ・保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気を付けていけばよいかなど、考察ができる。発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。                  | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | 乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。実際に子どもと触れあう機会や保育の様子を観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもとの適切な関わり方など、保育への理解を深める。  | 2章子どもの発達<br>1節 子どもの発達の特性<br>1 発達と保育<br>2 発達の共通性と個性<br>2節 子どものかからだの発達<br>1 発育・発達の評価<br>2 身体的特徴<br>3 生理的特徴<br>子どもとかかわってみよう（保育実習）                   | ・胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。・誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。・保育実習において安全に配慮し、子どもと適切にかかわったり観察することができる。・保育実習の記録をまとめ、成果を発表することができる。 | ○ | ○ | ○ | 6        |
|             | 心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その                                   | 3節 子どもの心の発達<br>1 社会・情緒的な発達<br>2 知的発達<br>3 言葉の発達<br>特集 月齢、年齢別の発育・発達   | ・子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。・人間関係の発達については乳児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。・それぞれの月齢・年齢ごとの身体的・生理的特徴に関心を持ち、保育に関連づけて考察することができる。子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。        | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | ・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。<br>・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。  | 4章子どもの文化<br>1節 子どもの文化の意義と支える場<br>1 子どもの文化<br>2 子どもの文化を支える場<br>2節 子どもの遊びと表現活動<br>1 遊びと発達<br>2 遊びと表現活動   | ・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。<br>・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。   | ○ | ○ | ○ | 6        |
| 2<br>学<br>期 | 子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。乳幼児期の栄養や食事（乳汁栄養や離乳食、幼児食など）の特徴を実習を通して理解しする。子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。   | 3章 子どもの生活<br>1節 子どもの生活と養護<br>1 生活と健康<br>2 栄養と食事<br>3 衣生活   | ・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。<br>・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。   | ○ | ○ | ○ | 12       |
|             | 基本的生活習慣と社会的生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。子ど  | 2節 生活習慣の形成<br>1 子どもの生活習慣<br>2 基本的生活習慣<br>3 社会的生活習慣<br>3節 健康管理と事故防止<br>1 子どもの健康管理<br>2 事故の防止と応急処置   | ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。・子どもの健康状態を見とときのポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。<br>・子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。   | ○ | ○ | ○ | 12       |

|             |   |  |  |  |  |   |          |
|-------------|---|--|--|--|--|---|----------|
|             | <p>もの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。</p>  |  |  |  |  |   |          |
| 3<br>学<br>期 | <p>子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考える。</p> | <p>5章 子どもの福祉<br/>1節 子ども観<br/>1 子ども観の変遷<br/>2 権利の主体としての子どもへ<br/>2節 子どもの福祉<br/>1 児童福祉<br/>2 子どもをとりまく課題と対策<br/>3 子どもが育つ社会環境</p> | <p>・子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。・児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。</p> |  |  | ○ | 10       |
|             | <p>子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察する。</p>   | <p>3節 子育て支援<br/>1 子育て支援からパートナーシップへ<br/>2 社会的養護<br/>3 地域の子育て支援</p>  | <p>・児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。<br/>・子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。</p>                          |  |  | ○ | 8        |
|             |   |  |  |  |  |   | 合計<br>70 |